

みつけた！



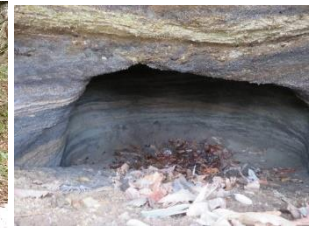
六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

二又魅力発見ツアー「二又空襲と防空壕編」

2024年4月27日実施のふるさと歴史散歩「二又魅力発見ツアー：二又空襲と防空壕」について、ご紹介いたします。

1 二又川の南側にある「上の防空壕6基」が残存

二又地区に、上・中・下の防空壕があった。現在、神社の中や旧二又小の裏手の下の防空壕は、埋められて現存しない。上の防空壕の6基の内1基は、防空壕の上部が崩落している。現存する6基の防空壕は、大変貴重な歴史遺産である。保存が求められている。



左から5号と4号の防空壕 5号防空壕の内部

2 二又集落の空襲：1945年（昭和20年）大湊空襲が終わったかと思う間もなく、午後1時50分から2時14分まで、二又神社の上空から米軍艦載機2機ずつ3編隊都合6機が数回にわたり、二又上空を旋回しながら焼夷弾投下や銃爆撃を加えた。死者2人、住家13戸が焼失する。犠牲者は、中嶋福蔵氏（58歳）で、場所は附田与三郎氏宅の中、空襲が始まる直前まで附田氏宅に数人でいたが、空襲が始まると同時に飛び出し、愛馬を空襲から守るために曳いていたのが最後で、いつ、何のために再び同家に戻ったのかだれも見っていない。焼け跡から、発見された遺体は、東側の土間にうつぶせになり、四肢、胸腹部とも完全に近かったにもかかわらず頭蓋骨がなかった。銃弾を避け土間に伏した時に、機銃弾を頭部に受けたと推定される。もう一人は、秋戸みきさん（秋戸権太郎養女）当時33歳。子供が4人あった。場所は、自分の家の玄関土間。傷は左腕の肘をかすり斜め下から右肩に抜けるように入った。盲管銃創（銃弾が貫通せずからだの中に留まること）だったことからすれば、何かに当たってそれた銃弾が、伏せようとして身をかがめた瞬間に不幸にも命中したものと推定できる。※旧二又小学校長天間松雄「空襲の記録」1973年一部抜粋

